

大豆特報

魚津市
魚津市農業技術会議

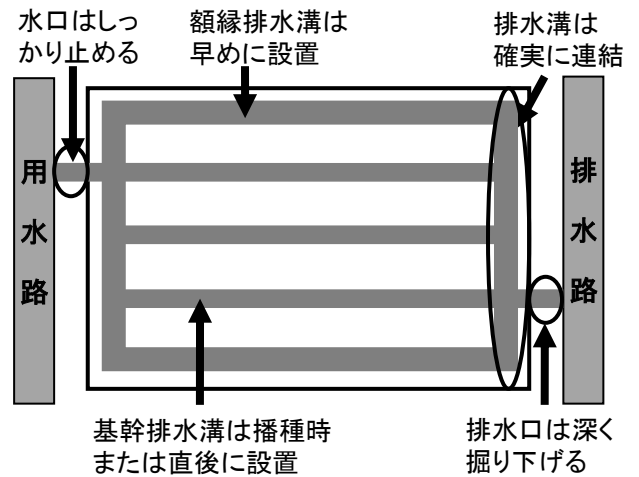
大豆栽培では、排水対策と土づくりが大変重要です。播種前のは場準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、播種などの一連の作業は土壌が良く乾いた状態で行い、確実な出芽と、苗立ち本数を確保しましょう。

麦跡大豆は大麦収穫後、直ちに播種できるよう計画しましょう。

1 排水対策

- (1) 耕起前に早めに溝幅 30cm、深さ 20cm 以上の額縁排水溝を設置し、深く掘り下げた排水口と連結する。
- (2) 播種時にできた溝は、排水溝に確実に連結させる。
- (3) 播種後も排水溝の点検・手直しを行い、排水を徹底する。



2 土壌改良・施肥

(1) 土壌改良剤

pH6.0~6.5 を目標に、石灰質資材を耕起前に施用しましょう。

土壌改良剤	苦土石灰	100kg/10a
-------	------	-----------

(2) 有機物

地力の低下を防ぐため、発酵鶏ふんやたい肥を施用しましょう。

有機物	発酵鶏ふん	150~200kg/10a
	牛ふんたい肥	1~2t/10a

(3) 基肥

土壌条件に応じて基肥を適正量施用しましょう。

基肥	肥料名	施肥量	備考
	BB基肥084	20kg/10a	※麦跡は、10~15kg/10a 増やす。

本年は春先のネキリムシ類の誘殺数が平年よりやや多くなっています。早期発見や防除を徹底しましょう。

3 種子消毒

薬剤名	使用法	使用量	対象害虫	備考
クルーザーMAXX	塗沫	40ml/ 種子5kg	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病等	薬剤は青色 処理後は風乾

4 播種

(1) 播種様式や播種時期並びに品種や粒径に応じた播種量を確認して、適正な栽植本数を確保しましょう。

品種	播種時期	栽植本数/10a	播種量(kg/10a)
えんれいのそら	6月上旬	14,000~16,000	5.4~6.2kg(大粒)
			4.5~5.1 kg(中粒)
	6月中旬	16,000~18,000	6.2~7.0 kg(大粒)
			5.1~5.8 kg(中粒)
シュウレイ	6月上旬	12,000~15,000	4.6~5.7 kg
	6月中旬	15,000~18,000	5.7~6.9 kg

* 苗立ち率 90%として計算

* 大粒(中粒)の百粒重: えんれいのそら 34.9 (28.9) g、シュウレイ 34.4g (中粒はなし)

(2) 耕起作業は、作土深20cmを目標に行う。碎土率60%以上を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリ回転数を調節する。摩耗した耕うん爪は交換する。

(3) 播種深度は3cmを目安とする。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により出芽苗立ちが悪くなる。

5 雑草防除

除草剤は、播種・覆土後、雑草の発生前に均一に表面散布しましょう。

除草剤名	使用時期	適用土壌	使用量 ml/10a	希釈水量 L/10a
ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	全土壌	500ml	100リットル
プロールプラス乳剤		砂土を除く全土壌	500ml	100リットル

注) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨の後に散布しましょう。

隣接作物に飛散すると薬害が生じるので、飛散しないように注意して散布してください。